

# 令和6年度彩の国あんしんセーフティネット事業

## 担当相談員専門研修

実施日	令和7年2月17日(月)
参加者	39名
講師 取組報告者	文京学院大学 中島修 教授 特別養護老人ホーム和光苑 桑原利美 氏 すたんど・あつぱ和光 (和光市社協) 矢口久子 氏



グループワークの様子

### 内容

彩の国あんしんセーフティネット事業の担当相談員としての役割や関係機関との連携のあり方を学ぶとともに、ワークを通じて主体的にケースに関わる姿勢やアセスメント力の強化を図る。

#### 1 ワーク①「相談支援業務を振り返ってみよう」

※業務振り返りシートによる自己チェック

#### 2 講義「相談員(CSW)の役割と支援における見立ての重要性について」

#### 3 取組報告「自立相談支援機関と施設の連携について」

和光市の自立相談支援機関(社協)と会員施設によるセーフティ支援事例の報告

#### 4 ワーク②「社会貢献支援員の見立ての流れを体験する」

相談依頼が入ってからアセスメント(面談)を行うまでの間の、関係機関と社会貢献支援員による情報確認や支援の見立てについて、ワークを通して学ぶ。

### 参加者の声

- ・業務振り返りシートは、自分が行ってきたことを振り返る良い機会となった。足りない部分を改めて知ることができた。
- ・講義を通じて、地域を知ることの大切さ、横とのつながりの重要性を理解し自分のやるべきこと、できることを増やしていこうと思った。
- ・自分がアセスメントをしない場合でも、アセスメントを共有することが大切だということを知った。知ることによって新たに知りたいことや疑問を持つようにしたい。
- ・取組報告を聞いて、緊急性のあるものを都度確認して支援することや、一時しのぎではなく、今後につなげることを念頭において支援することが大切だと分かった。
- ・ワークを通じて、見立てを立てていくことの重要性、まずはアセスメントが重要だと理解した。1度だけでのアセスメントではなくても何度も繰り返し聞いていくことも重要だと思った。